

第63回

日本リハビリテーション医学会学術集会



ハンズオンセミナー4

テーマ

CPXハンズオンセミナー
心肺運動負荷試験 (CPX) による
運動耐容能評価のポイント

開催日時

2026年 6月6日(土) 16:00-18:00

会場名

ハンズオンセミナー会場 (福岡国際会議場 4F 401+402)

座長

牧田 茂先生 (川口きゅうぼりリハビリテーション病院 リハビリテーション科)

演者

白石 裕一先生 (京都府立医科大学循環器内科)

定員

50名

申込方法

事前申込なし。参加費無料
当日、直接会場にお越しください。

※第63回日本リハビリテーション医学会学術集会への参加登録が必要です。

概要

心肺フィットネス(CRF)は、心疾患のみならず高齢者の予後予測因子として確立されている(Circulation 134(24):e653-699 2016 , Prog Cardiovasc Dis 62(2):86-93 2019)。

昨年は、最大酸素摂取量(VO₂)の概念の100周年を迎えている(Prog Cardiovasc Dis 83:36-42 2024)。

実際にすべての患者の最大VO₂を測定することは困難であり、非運動指標による予測式も立案され(Prog Cardiovasc Dis 83:36-42 2024)、AHAでもCPXが出来ない場合予測式を用いることを推奨している。

しかし、やはり可能な限り、最大VO₂を直接計測することが重要であることは言うまでもない。

心肺運動負荷試験は労作時息切れの原因検索や運動耐容能評価、運動処方などに広く用いられている。

ワッサーマンらが提唱した肺、心臓、末梢(骨格筋)の連関から、運動耐容能の規定因子はさまざまであるが、より上流に余力があることが知られている。一方で高齢者の増加に伴い一次性(ないし二次性)サルコペニアからの骨格筋の量や質(ミトコンドリア機能など)の変化に伴った、運動耐容能低下が昨今大きな問題となっている。

このセッションでは健常なかたの運動耐容能を実際に計測しながらその規定因子について考察したい。

また、特に呼吸機能との関連についても考察する。